

主要施策の概要

I 安心・支え合い最優先

市民の安全・安心の確保と、地域の支え合いを醸成していく取り組みを進める

1. 水防対策及び“レッドゾーン内人口ゼロ”の推進 【予算額 115,220千円】

- 平成26年夏のゲリラ豪雨による浸水被害のあった地域を始め、風水害時の被害シミュレーションに基づき、浸水被害の危険のある地区の水防対策（雨水管の新設など）に着手する。
- レッドゾーン（土砂災害特別警戒区域）内の人口ゼロを推進するため、市による土砂災害対策の直接工事の実施、大阪府の土砂災害対策工事を促進する補助金、レッドゾーンからの家屋移転補助金など、複合的な施策を展開する。

2. 街頭防犯カメラによる安全・安心の見守り体制 【予算額 44,946千円】

- 既設の1800台の防犯カメラ（市設置1050台・自治会設置750台）でまちを見守るとともに、自治会への設置補助制度において、カメラ設置密度の低いエリアに取付ける場合は通常の倍の補助率（通常は4割補助→8割補助）を適用するしくみを取り入れ、防犯カメラ空白地帯をなくしていく。

3. 消防・救急体制の充実 【予算額 75,639千円】

- 消防ポンプ自動車、高規格救急車1台を更新する。
- 消防職員による全戸訪問に使用する情報システムを構築し、防火・防災啓発に加え、必要な福祉サービスにつなぐなど、きめ細やかな対応に活用する。

4. 健康長寿の取り組みの強化 【予算額 23,310千円】

- シニア世代に「お出かけ先」を持っていただくことをめざし、箕面シニア塾のカリキュラムを見直すとともに、シニアのサークル活動に「シニア活動応援交付金」を交付し、仲間づくりと健康づくりを応援する。

5. 多様な市民が暮らしやすい環境整備 【予算額 40,549千円】

- 小型発信器を持った人の居場所を検知する「見守りサービス」（平成28年度に小・中学生で実証実験）を高齢者にも拡大し、早期発見と保護により、認知症の高齢者を守るとともに、ご家族を支援する。
- これまで制度のはざまで支援を受けられなかった、軽度難聴児の補聴器購入費用を市独自で助成する。

6. 市立病院における収支改善と将来展望

- 「新・市立病院改革プラン」に基づき、手術件数と新規入院患者数を増加させ、短期間での収支改善を実現する。
- 市立病院の中長期的な将来を展望し、建て替えも視野に入れた検討を進める。

II 子育てしやすさ日本一

子育てがしやすく、子どもたちが健やかにのびのびと育つ環境を整える

1. 子ども人口の増加への対応 【予算額 1,879,206千円】

- 子育て世代の流入に伴う児童・生徒数の増加に対応するため、彩都の丘学園、とどろみの森学園を増築するとともに、豊川南小学校の教室を増設する。
- 船場地区への新たな小学校建設の検討に伴い、通学区域審議会を開催するとともに、ワークショップを立ち上げて、地域活動の視点からも校区について検討を進める。

2. 充実した英語教育の継続と外国人英語指導助手の増員 【予算額 206,748千円】

- 全小・中学校、全9学年での英語教育を継続し、子どものコミュニケーション能力を養う。
- 外国人英語指導助手を34名から48名に増員し、少人数グループでの英語学習を試行実施する。

3.“通年の待機児童ゼロ”の推進 【予算額 735,592千円】

- 定員330人分の民間保育所（6園）を整備し、2年以内に“通年の待機児童ゼロ”を実現する。
- 民間保育所に勤務する市内在住保育士と、提携大学等で保育課程を学ぶ学生に対する月額2万円の補助を継続し、引き続き保育士の安定確保を図る。

4. きめ細やかな子育て支援の充実 【予算額 580,872千円】

- 子どもの医療費助成の対象者を今年4月「高校卒業年齢まで」に拡大し「高校卒業まで・入院通院とも・所得制限なし」とする。
- 「出張子育てひろば」の開催回数を1.5倍（年間246回）とするとともに、保育士と保健師が一体となり、健康や発達面での相談も気軽にできる環境を整える。
- ひとり親家庭の親のための法律相談を月1回（8月は毎週）実施し、親権や養育費など特有の悩みに対応する体制を整える。
- 貧困の連鎖を断ち切る取り組みとして、「子ども成長見守りシステム」の運用を開始し、0～18歳まで切れ目なく子どもの状況を見守ることにより、支援が必要な子どもの早期発見とサポートにつなげる。

5. 子どもの安全を守る多角的な取り組み 【予算額 165,498千円】

- 小型発信器を持った子どもの居場所を検知する「見守りサービス」（平成28年度に小・中学生で実証実験）を本格運用し、700箇所もの検知ポイントで、子どもたちを見守る。
- 彩都の丘学園に「地域安全センター」（警察官立ち寄り所）を整備し、地域との連携で子どもたちの安全を守る。
- 市内で唯一の自転車通学がある第四中学校の東側において自転車道を整備し、通学の安全を確保する。

III 緑・住みやすさ最先端

豊かな緑を守り、便利で住みやすく、元気で活力ある箕面をめざして、まちづくりを進める

1. 都市計画道路の整備と道路ネットワークの再検討 【予算額 1,317,903千円】

- 北大阪急行線の新駅開業に合わせた2020年度の開通をめざして、新駅へのアクセス道路となる都市計画道路3路線（萱野東西線、芝如意谷線、国文都市4号線）の整備を引き続き進める。
- 箕面市の都市インフラの“完成形”に相応しい道路ネットワークの構築をめざし、都市計画道路網の再検討を進める。

2. 道路と公園の自主管理制度の充実 【予算額 10,799千円】

- 道路や公園の自主管理を行う団体がより活動しやすい制度へと改善するとともに、交付金の単価を1.25倍～1.5倍に引き上げて、活動団体数と活動面積の増加を図る。

3. 道路・橋梁の安全対策の継続的な推進 【予算額 484,160千円】

- 自転車走行レーン（青い路面標示）の全市展開に向けて、市役所前を東西に走る中央線など総延長6.6キロメートルの自転車レーンを整備する。
- 橋梁長寿命化計画に基づき、3橋の耐震補強工事と3橋の耐震補強設計を行うとともに、国土交通省の「橋りょう定期点検要領」に基づき、市内全域で橋長2メートル以上の32橋の点検を実施する。

4. 桜井駅前ロータリーと歩行空間の整備に向けた用地取得 【予算額 140,782千円】

- 再整備中の桜井駅前において、バスロータリーなど駅前広場や歩行空間の2020年度の完成をめざし、用地取得を進める。

5. 箕面グリーンロード半額定期券の継続 【予算額 70,298千円】

- 昨年夏から実施している箕面グリーンロードの「お得な半額定期券」（通常17,000円が半額の8,500円、週3回の往復利用でモトが取れる定期券）の社会実験を継続し、本格導入に向けて関係者との調整を進める。

6. 北大阪急行線の延伸と新駅周辺のまちづくり 【予算額 3,723,109千円】

- 線路（高架部分）の橋脚や駅舎の基礎工事など鉄道本体の工事を進めるとともに、(仮称)新箕面駅の駅ビルや、(仮称)箕面船場駅前の市民文化ホールなどの駅周辺施設について、整備手法や運営事業者を決定する。

※各項目の予算額は、ここに挙げていない事業分を含んでいる場合があります。詳細は「主要施策」をごらんください。